

公 開  
資 料 3

第 3 4 4 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和5年5月25日

日 本 学 術 会 議



# 公開審議事項

| 件名・議案                 | 提案者   | 資料<br>(頁)   | 提案理由等<br>(※シンポジウム等、後援関係については概要を記載) | 説明者  | 根拠規定等 |                         |
|-----------------------|---|---|------------------------------------|--|-------|-------------------------|
| <b>Ⅲ 公開審議事項</b>       |   |   |                                    |  |       |                         |
| <b>1. 規則関係</b>        |   |   |                                    |  |       |                         |
| 提案1                   | 「外部へ公表する文書の取扱いについて」の一部を改正すること   | 会長  | 5                                  | 「外部へ公表する文書の取扱いについて」について、連絡会議に関する規定を新たに設ける必要があるため。  | 会長    | —                       |
| <b>2. 委員会関係</b>       |   |   |                                    |  |       |                         |
| 提案2                   | (課題別委員会)<br>我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同分科会委員の決定(追加1件) | 会長  | 7                                  | 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会における合同分科会委員を決定する必要があるため。  | 菱田副会長 | 内規18条                   |
| <b>3. 国際関係</b>        |   |   |                                    |  |       |                         |
| 提案3                   | 令和5年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定すること   | 会長  | 9                                  | 令和5年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定する必要があるため。  | 高村副会長 | 国際学術交流事業に関する内規19条2項、21条 |
| <b>4. その他のシンポジウム等</b> |   |   |                                    |  |       |                         |
| 提案4                   | 公開シンポジウム「光がもたらす未来社会～国際ユニオン発足記念シンポジウム～」の開催について   | 総合工学委員会<br>委員長                                    | 11                                 | 主催：日本学術会議総合工学委員会IC0分科会<br>日時：令和5年7月10日(月)13:00～17:50<br>場所：日本学術会議講堂、他1会議室(ハイブリッド開催)<br><b>※第三部承認</b>   | —     | 内規別表第2                  |
| 提案5                   | 公開シンポジウム「科学的知見創出に資する可視化(8)：可視化を基盤とする分野横断型デジタル視考」の開催について   | 総合工学委員会<br>委員長                                    | 13                                 | 主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会<br>日時：令和5年7月21日(金)13:30～17:10<br>場所：日本学術会議講堂、他1会議室(ハイブリッド開催)<br><b>※第三部承認</b>   | —     | 内規別表第2                  |
| 提案6                   | 公開シンポジウム「医工学シンポジウム2023」ー医工連携の現在そして未来ー(仮題)」の開催について   | 機械工学委員会<br>委員長、基礎医学委員会委員長、電気電子工学委員会委員長、材料工学委員会委員長 | 17                                 | 主催：日本学術会議機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会、材料工学委員会バイオマテリアル分科会<br>日時：令和5年7月22日(土)13:00～16:30<br>場所：東北大学青葉山キャンパスサイエンスキャンパスホール(宮城県仙台市)(ハイブリッド開催予定)<br><b>※第三部承認</b> | —     | 内規別表第2                  |

|      |  |                     |    |   |   |        |
|------|--|---------------------|----|---|---|--------|
| 提案7  | 公開シンポジウム「危機の時代にチャレンジする高度実践看護師の未来」の開催について                 | 健康・生活科学委員会委員長       | 21 | 主催：日本学術会議健康・生活科学委員会、健康・生活科学委員会看護学分科会<br>日時：令和5年7月23日（日）13：00～16：00<br>場所：オンライン開催（オンデマンド配信あり）<br>※第二部承認                                      | — | 内規別表第2 |
| 提案8  | 公開シンポジウム「ニンゲン学的環境教育の提案：ローカルとグローバルのはざまで」の開催について           | 環境学委員会委員長           | 25 | 主催：日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会<br>日時：令和5年7月23日（日）13：00～16：00<br>場所：学校法人先端教育機関事業構想大学院大学東京キャンパス（東京都港区）（ハイブリッド開催）<br>※第三部承認                       | — | 内規別表第2 |
| 提案9  | 公開シンポジウム「食・土・肥料—SDGs達成のための基礎科学として」の開催について                | 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長 | 27 | 主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会土壌科学分科会、一般社団法人日本土壌肥料学会<br>日時：令和5年7月29日（土）10：00～16：15<br>場所：東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）（ハイブリッド開催）<br>※第二部承認 | — | 内規別表第2 |
| 提案10 | 公開シンポジウム「市民性涵養と法教育—現場と法学教育の連携から考える」の開催について               | 法学委員会委員長            | 31 | 主催：日本学術会議法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会<br>日時：令和5年7月30日（日）14：00～17：30<br>場所：オンライン開催<br>※第一部承認  | — | 内規別表第2 |
| 提案11 | 公開シンポジウム「宇宙や自然を探求しよう～新たな発見をめざす基礎研究の魅力～（案）」の開催について        | 第三部長                | 33 | 主催：日本学術会議第三部<br>日時：令和5年8月21日（月）13：30～17：30（予定）<br>場所：福井県立大学（講堂）（ハイブリッド開催）<br>※第三部、科学者委員会承認  | — | 内規別表第2 |
| 提案12 | 公開シンポジウム「IT社会と法」における光と影—利用者・データ・アクセスに焦点を当てて—（仮題）」の開催について | 法学委員会委員長            | 35 | 主催：日本学術会議法学委員会IT社会と法分科会<br>日時：令和5年9月1日（金）14：00～17：00<br>場所：日本学術会議講堂<br>※第一部承認   | — | 内規別表第2 |
| 提案13 | 公開シンポジウム「第17回防災減災学術連携シンポジウム『防災科学からみた関東大震災の回顧と展望』」の開催について | 防災減災学術連携委員会委員長      | 37 | 主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会<br>日時：令和5年9月17日（日）もしくは18日（祝）<br>場所：オンライン開催   | — | 内規別表第2 |

## 5. 後援

|      |              |    |    |   |    |                 |
|------|--------------|----|----|---|----|-----------------|
| 提案14 | 国内会議の後援をすること | 会長 | 39 | 以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとした。<br>・第49回全国語学教育学会年次国際大会<br>・こども環境学会2023年大会（沖縄）<br>『地域に生きるこども』 | 会長 | 後援名義使用承認基準3(2)ウ |
|------|--------------|----|----|---|----|-----------------|

## 6. その他

|     | 件名  | 資料(頁) |
|-----|---|-------|
| 参考1 | 各国アカデミー調査について   | 別冊    |
| 参考2 | 今後の総会及び幹事会開催予定<br>今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年6月15日(木) 14:30～開催。 | 41    |



外部へ公表する文書の取扱いについて（平成20年1月24日日本学術会議第50回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

| 改正後  | 改正前   |
|--|---|
| <p>2. 「記録」の内容や作成等に関する一切の責任は、各部が負うものとする。各委員会・分科会が作成する「記録」についても、関連する部が責任を負うものとする。</p> <p>ただし、機能別委員会及び課題別委員会が作成する「記録」については、当該委員会が責任を負うものとし、<u>委員会等連絡会議が作成する「記録」については、幹事会が責任を負うものとする。</u></p> <p>(略)</p> | <p>2. 「記録」の内容や作成等に関する一切の責任は、各部が負うものとする。各委員会・分科会が作成する「記録」についても、関連する部が責任を負うものとする。</p> <p>ただし、機能別委員会及び課題別委員会が作成する「記録」については、当該委員会が責任を負うものとする。</p> <p>(同左)</p> |

附則（令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。





**【課題別委員会】**

○分科会委員の決定（追加1件）

（我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同少子化時代のサステナブルな学術環境・エコシステムに関する分科会）

| 氏 名   | 所 属 ・ 職 名                        | 備 考   |
|-------|----------------------------------|-------|
| 狩野 光伸 | 岡山大学副理事・学術研究院ヘルスシステム統合<br>科学学域教授 | 第二部会員 |

**【設置：第339回幹事会（令和5年2月22日）、追加決定後の委員数：15名】**



## 令和5年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和5年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定を行う。

|   | 会議名称                             | 会 期                 | 開催地/<br>形式等                         | 派遣候補者<br>(職名)                               | 推 薦                               | 内 容  |
|---|----------------------------------|---------------------|-------------------------------------|---|-----------------------------------|--|
| 1 | ISC メンバーズミーティ<br>ング              | 5月10日<br>～<br>5月12日 | パリ<br>(フランス)                        | 高村 ゆかり<br>第一部会員<br>(東京大学未来ビジョン研究センタ<br>ー教授) | 国際委員会                             | ・代表派遣の取止め<br>※実施計画、派遣者は第339回幹<br>事会(令和5年2月22日)にて承認<br>済み。          |
| 2 | 第31回国際地図学会<br>議(ICA)総会等          | 8月13日<br>～<br>8月18日 | ケープタウン<br>(南アフリカ)                   | 若林 芳樹 ※<br>—<br>(東京都立大学都市環境学部教<br>授)        | 地球惑星科学委<br>員会 IGU 分科会<br>ICA 小委員会 | ・派遣者の決定<br>※実施計画については第339回幹<br>事会(令和5年2月22日)にて承認<br>済み。<br>※現地出席予定 |
| 3 | 第52回IUPAC 総会及<br>び第49回世界化学会<br>議 | 8月18日<br>～<br>8月25日 | ハーグ<br>(オランダ)                       | 所 裕子<br>連携会員<br>(筑波大学大学院数理物質科学<br>研究科教授)    | 化学委員会<br>IUPAC 分科会                | ・派遣者の決定<br>※実施計画については第339回幹<br>事会(令和5年2月22日)にて承認<br>済み。<br>※現地出席予定 |
| 4 | 国際結晶学連合(IUCr)<br>総会等             | 8月22日<br>～<br>8月29日 | メルボルン<br>(オーストラ<br>リア)              | 木村 勇氣 ※<br>—<br>(北海道大学低温科学研究所教<br>授)        | 化学委員会 IUC<br>r分科会                 | ・派遣者の決定<br>※実施計画については第339回幹<br>事会(令和5年2月22日)にて承認<br>済み。<br>※現地出席予定 |
| 5 | 国際宗教学宗教史学会<br>(IAHR) 臨時理事会<br>等  | 8月30日<br>～<br>9月7日  | ヴェリニユス、ク<br>ラフ<br>(リトアニア・ポ<br>ーランド) | 藤原 聖子<br>連携会員<br>(東京大学大学院人文社会系研<br>究科教授)    | 哲学委員会                             | ・派遣者の決定<br>※実施計画については第339回幹<br>事会(令和5年2月22日)にて承認<br>済み。<br>※現地出席予定 |

|   | 会議名称                         | 会 期                         | 開催地/<br>形式等                       | 派遣候補者<br>(職名)                                     | 推 薦                        | 内 容  |
|---|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|---|----------------------------|--|
| 6 | 第 12 回国際都市土壌<br>会議 (IUSS) 総会 | 9月4日<br>～<br>9月7日           | サンチアゴ・<br>デ・コンポステ<br>ーラ<br>(スペイン) | 川東 正幸<br>連携会員<br>(東京都立大学大学院都市環境<br>科学研究科地理環境学域教授) | 農学委員会                      | ・派遣者の決定<br>※実施計画については第 339 回幹<br>事会(令和5年2月 22 日)にて承認<br>済み。<br>※現地出席予定 |
| 7 | 海洋研究科学委員会<br>(SCOR) 総会等      | 10 月 18 日<br>～<br>10 月 22 日 | グアヤキル<br>(エクアドル)                  | 張 勁<br>連携会員<br>(富山大学学術研究部理学系教<br>授)               | 地球惑星科学委<br>員会 SCOR 分科<br>会 | ・派遣者の決定<br>※実施計画については第 339 回幹<br>事会(令和5年2月 22 日)にて承認<br>済み。<br>※現地出席予定 |

※の派遣候補者は、連携会員（特任）に承認されることを条件とする。

※10月の期の改選により、会員・連携会員の種別に変更がある場合は、追って連携会員（特任）に任命する等の対応を行う。

公開シンポジウム  
「光がもたらす未来社会～国際ユニオン発足記念シンポジウム～」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会 ICO 分科会
2. 共 催：国際光年協議会
3. 後 援：公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、公益社団法人日本分光学会
4. 日 時：令和 5 年（2023 年） 7 月 10 日（月） 13：00 ～ 17：50
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室 6-A（1）（東京都港区六本木 7-22-34）  
（ハイブリッド開催）（ICO 分科会開催のため）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
ICO（国際光学委員会）が ISC（国際学術会議）正会員へ昇格したことを記念して、「光がもたらす未来社会」をテーマにしてシンポジウムを開催する。本シンポジウムでは、光科学技術がもたらす未来社会について議論し、科学と社会への分野横断的な貢献を展望する。
9. 次 第：  
司会 松尾 由賀利（日本学術会議連携会員、法政大学理工学部教授）  
13:00 開会挨拶：ICO の歴史と発展  
荒川 泰彦（日本学術会議連携会員、東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任教授）  
13:15 「光と文化」  
石井 幹子（株式会社石井幹子光デザイン事務所）  
13:50 「光と情報」  
川添 雄彦（日本電信電話株式会社代表取締役副社長）  
14:25 休憩  
  
司会 馬場 俊彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院工学研究院教授）

- 14:35 「光と食料」  
久間 和生 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事長)
- 15:10 「光と量子生命」  
馬場 嘉信 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命科学研究  
拠点センターセンター長)
- 15:45 「光と時間」  
香取 秀俊 (東京大学大学院工学系研究科教授)
- 16:20 閉会挨拶  
美濃島 薫 (日本学術会議連携会員、電気通信大学情報理工学研究科先進理  
工学専攻教授)

16:30-17:50 若手研究者による発表 (ポスター)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

## 公開シンポジウム

「科学的知見創出に資する可視化（8）：可視化を基盤とする分野横断型デジタル視考」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本応用数学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人芸術科学会、公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）、一般社団法人情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、慶應義塾大学知的環境研究センター、立命館大学アート・リサーチセンター、お茶の水女子大学文理融合 AI・データサイエンスセンター（予定）
3. 後 援：公益社団法人日本自動車技術会（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）7月21日（金）13：30～17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室6-A（1）（東京都港区六本木7-22-34）  
（ハイブリッド開催）（科学的知見の創出に資する可視化分科会開催のため）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
現在、様々な研究分野で、計測や観測、インターネット上でのデータ収集、実験やシミュレーション等により、多種多様なデジタルデータが生成・蓄積され続けている。この状況は、科学技術のみならず、文化財保存や社会ジャーナリズムなど、伝統的にはアナログデータを用いていた研究分野にまで急速に広がっている。こうした状況を受け、研究分野を問わず、デジタルデータが研究の第1次データとなるが増えており、その状況を最大限に活かした新たな学術研究の創出が、今、求められている。一方、大規模・複雑なデジタルデータの理解と利活用に必須なのが「可視化」である。そこで本シンポジウムでは、デジタルデータの可視化をコアとする分野横断型の研究スタイルとしての「デジタル視考」

を追求する。とくに、「科学技術」、「文化芸術科学」、「社会科学」の3分野に跨がる学際的研究に関して、文系・理系の枠にとらわれず、具体的な議論を展開したい。併せて、科学的知見の創出に資する可視化分科会（以下、「可視化分科会」という。）の調査・議論の成果も紹介する。

9. 次 第：

13:00-13:05 開会の挨拶

小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授）（予定）

※第1部、第2部、第4部については、最初の講演者が、コーディネータ・司会を兼ねる。

[第1部] 科学技術とデジタル視考

13:05-13:15 講演1：可視化分科会が考える「科学技術とデジタル視考」

藤代 一成（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部情報工学科教授）

13:15-13:45 講演2：農業DXと可視化（仮題）

茅 暁陽（山梨大学理事・副学長）

[第2部] 文化芸術科学とデジタル視考

13:45-13:55 講演3：可視化分科会が考える「文化芸術科学とデジタル視考」

田中 覚（日本学術会議連携会員、立命館大学情報理工学部教授）

13:55-14:25 講演4：文化財のデジタルアーカイブと文理融合研究（仮題）

赤間 亮（立命館大学文学部教授、立命館大学アート・リサーチセンターセンター長）

----- 休憩 -----

[第3部] 心の可視化とデジタル視考

コーディネータ・司会：鹿内 菜穂（亜細亜大学経営学部准教授）

14:30-15:00 講演5：こころの可視化（仮題）

加藤 千恵子（東洋大学総合情報学部教授、学部長）

[第4部] 社会科学とデジタル視考

15:00-15:10 講演6：可視化分科会が考える「社会科学とデジタル視考」

伊藤 貴之（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

15:10-15:40 講演7：大規模な群集移動の計測・シミュレーション・最適化・可視化

大西 正輝（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター研究チーム長）



—— 休憩 ——

[第5部] 総合討論

15:50-16:10 総括講演

萩原 一郎（日本学術会議連携会員（特任）、明治大学研究・知財戦略機構  
研究特別教授）

16:10-17:10 総合討論（パネルディスカッション）

コーディネータ・司会：竹島 由里子（東京工科大学メディア学部教授）

パネリスト：講演者及び分科会が推薦する研究者等

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



## 公開シンポジウム

「「医工学シンポジウム 2023」－医工連携の現在そして未来－（仮題）」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会、材料工学委員会バイオマテリアル分科会
2. 共 催：東北大学大学院医工学研究科、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本金属学会（調整中）、日本バイオマテリアル学会、一般社団法人日本MRS、一般社団法人日本歯科理工学会、一般社団法人日本人工臓器学会（調整中）、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本再生医療学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人繊維学会、公益社団法人高分子学会、日本 DDS 学会、一般社団法人日本骨代謝学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人スマートプロセス学会
3. 後 援：東北大学工学研究科・医学系研究科、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、公益社団法人精密工学会、公益社団法人計測自動制御学会（調整中）、NPO 法人医工連携推進機構、一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ、日本歯科器械工業協同組合（調整中）、一般社団法人日本医療機器産業連合会
4. 日 時：令和5年（2023年）7月22日（土）13:00～16:30
5. 場 所：東北大学青葉山キャンパスサイエンスキャンパスホール（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6）（ハイブリッド開催予定）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：検討中
8. 開催趣旨：

わが国の医療機器や人工臓器に関する研究技術開発は世界的なレベルにあるが、実用化に至り世界中で利用されているものはそれほど多くはない。エレクトロニクス技術や機械・材料技術に加え、最新のナノ及びバイオテクノロジー技術と AI・IT 技術を組み合わせた新分野への期待が大きい。医工学は医療機器や人工臓器の開発を目指す独自の研究領域であ

り、医学系と工学系との密接な連携研究が強く求められるフィールドである。このような医工学の特性を踏まえ、医工学の教育・研究体制の現状と課題、研究開発から実用化に至る過程での課題と方策、国内外関連学協会等の動向、情報交換、連携推進の方策などに関し、幅広く学術的に検討することを目的とし、日本学術会議では2022年度より「医工学シンポジウム」を開催している。2回目となる本シンポジウムでは、医工学連携の現状と将来展望をテーマとし、「医工学シンポジウム2023」を東北大学で開催する。

## 9. 次 第：

総合進行役：石川 拓司（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授）

13:00-13:05

1) 趣旨説明 但野 茂（日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院保健科学研究院客員教授・名誉教授）

13:05-13:10

2) 挨拶 西條 芳文（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科研究科長・教授）

13:15-14:45

座長 松本 健郎（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院工学研究科教授）

3) 講演1 大島 まり（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授）

4) 講演2 岸田 晶夫（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授）

5) 講演3 中川 敦寛（東北大学共創戦略センター特任教授、東北大学病院教授）

14:45-15:00 休憩

15:00-16:25

6) 総合討論（調整中）

テーマ：全国に広がる医工連携

モデレータ：西條 芳文（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科研究科長・教授）

15:00-15:10 話題提供 宮原 裕二（東京医科歯科大学学生体材料工学研究所特任教授）

15:10-15:20 話題提供 向井 敏司（神戸大学大学院医学研究科医療創成工学専攻長・教授）

15:20-15:30 話題提供 田中 真美（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授）

パネリスト：大島 まり（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報学環/生産技術研究所教授）  
岸田 晶夫（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授）  
中川 敦寛（東北大学共創戦略センター特任教授、東北大学病院教授）  
宮原 裕二（東京医科歯科大学学生体材料工学研究所特任教授）  
向井 敏司（神戸大学大学院医学研究科医療創成工学専攻長教授）  
田中 真美（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授）

16:25-16:30

8) 閉会の挨拶 塙 隆夫（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科特任教授、神戸大学大学院医学研究科客員教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



公開シンポジウム  
「危機の時代にチャレンジする高度実践看護師の未来」  
の開催について

1. 主催：日本学術会議健康・生活科学委員会、健康・生活科学委員会看護学分科会
2. 共催：一般社団法人日本看護系学会協議会、公益社団法人日本看護協会（予定）
3. 後援：一般社団法人日本看護系大学協議会、公益社団法人日本看護科学学会（予定）
4. 日時：令和5年（2023年）7月23日（日）13：00～16：00
5. 場所：オンライン開催（オンデマンド配信あり）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

SDGsをはじめ長期的な視点で複雑な問題を大きく変えようとする動きと、人々の暮らしが地域の中で変わろうとしている。そのなかで臨床現場を含む地域社会において、看護の理論と実践を最大限活かして多様なセクターとともに人々の保健医療福祉のなかで看護の質を保証していくことが求められている。看護職は健康課題をもつ様々な人々に対し、フロントラインで療養上の世話と診療の補助にあたっており、コロナ禍においては保健医療福祉、地域、在宅、臨床で多様な役割を果たす一方で、世界的な医療危機と、世界的なコロナ禍によって過剰な医療逼迫と看護師不足として顕在化した。これは、人材の数不足ではなく、個々のケアニーズと裁量の不和も含まれている。

そこで今、長年の健康課題と疾病構造の変化から生じてきた縦割の役割分担の繰り返しではなく、危機の時代を乗り越えるべく、看護からどのように長期的な健康課題につながるかに焦点を当て、システムの明確な改善のためのタスクや体制を検討する必要がある。その上で、包括的な健康課題にむけて社会が一体となることへの貢献として、危機の時代に挑戦している専門看護師からみた将来の裁量拡大の必要性について再確認したい。

本シンポジウムでは、改めて社会システムの変化と不確実な暮らしのなかで保健・医療・福祉を一緒に見ていく看護師に必要な裁量と制度の拡張という中核的課題について議論する。

9. 次 第：

総合司会：西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）

挨拶：

13:00～13:20

開会挨拶：望月 眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）（調整中）

武田 洋幸（日本学術会議第二部長、京都産業大学生命科学部教授）（調整中）

主賓挨拶：文部科学省高等教育局医学教育課（予定）

厚生労働省医政局看護課（予定）

趣旨説明：小松 浩子（日本学術会議第二部会員、一般社団法人日本看護系学会協議会監事、日本赤十字九州国際看護大学学長）

第1セッション

講演

13:20～13:40 「地域ケアの協働の未来に必要な裁量とは」

下地 ひかり（沖縄県立北部病院看護師、一般社団法人日本看護系大学協議会ナースプラクティショナー）

13:40～14:00 「診療看護師（NP）の導入後の体制構築とは」

本田 和也（独立行政法人国立病院機構長崎医療センター統括診療部脳神経外科診療看護師（NP））

14:00～14:20 「どのように制度を拡張していくべきか（実際の活動）」

市川 智里（国立研究開発法人国立がん研究センターがん看護専門看護師）

14:20～14:40 「医師からみる APN の裁量拡大の必要性とは」

一戸 由美子（むさしの丘ファミリークリニック院長）

14:40～15:00 休憩

第2セッション

総合討論

15:00～16:00

司会：神原 咲子（日本学術会議連携会員、神戸市看護大学教授）

新福 洋子（日本学術会議連携会員、広島大学副学長）



指定発言

公益社団法人日本看護協会 APN 担当者（予定）

一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会（予定）

日本看護系大学協議会（予定）

宮田 俊男（早稲田大学理工学術院先進理工学研究科教授、医療法人 DEN みいクリニック理事長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会、分科会委員）



公開シンポジウム  
「ニンゲン学的環境教育の提案：ローカルとグローバルのはざままで」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：学校法人先端教育機関事業構想大学院大学、一般社団法人日本環境教育学会  
(検討中)
4. 日 時：令和5年（2023年）7月23日（日）13:00～16:00
5. 場 所：学校法人先端教育機関事業構想大学院大学東京キャンパス（東京都港区南青山3-13-16）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

環境教育というと、自然環境や環境問題をテーマとした科学教育の取組をイメージする人は多い。一方で、環境教育は「価値」の教育として、すなわち、私たち人間の考え方や生き方を再考する契機としても捉えられてきた。科学教育としての環境教育は、科学という共通言語を介してグローバルに展開しうるが、価値教育としての環境教育はどうだろうか。個人や地域性と深くかかわる「価値」の次元が、グローバルな展開が求められている環境教育においてどのように意味づけられるだろうか。本シンポジウムでは、「ニンゲン学的環境教育」というコンセプトのもと、価値教育としての環境教育について掘り下げる。文化的・社会的存在としての人間と、自然の循環の中に組み込まれた動物的存在としてのヒト。二つの存在様式を往還しながら自然とかわり生きていく私たち「ニンゲン」の価値観・世界観を紐解くことで、「環境教育」の理解を拡張することを目指す。

9. 次 第：

13:00-13:05 開会のあいさつ

北村 友人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

13:05-13:15 趣旨説明「ニンゲン学的視点から環境教育を問い深める」

豊田 光世（日本学術会議連携会員、新潟大学佐渡自然共生科学センター准教授）

**【第1部】ニンゲン学的環境教育の思想から**

司会：野田 真里（茨城大学人文社会科学部教授）

13:20-13:40 「環境教育のグローバルガバナンスの展開」

黒田 一雄（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

13:40-14:00 「ニンゲン学的サステナブル経営と教育」

重藤 さわ子（学校法人先端教育機関事業構想大学院大学教授）

14:00-14:20 「みえないもの・わからないことに向き合う環境教育－神と妖怪を語ること」

高田 知紀（兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授）

14:20-14:25 休憩

**【第2部】ニンゲン学的環境教育の実践から**

司会：井上 真理子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所多摩森林科学教育的資源研究グループ園主任研究員）

14:25-14:45 「生きる実感から豊かさを再考する－大学生を対象とした長野県泰阜村の自然体験合宿を振り返って」

二宮 咲子（関東学院大学人間共生学部准教授）

14:45-15:05 「ヒトと人間をつなぐ手法としての環境教育－兵庫県丹波篠山市での獣害対策をめぐる実践を通した－考察」

清野 未恵子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

15:05-15:10 休憩

15:10-15:55 「ニンゲン学的環境教育のこれから」

コメンテーター：山極 寿一（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所所長）

15:55-16:00 閉会のあいさつ

関 礼子（日本学術会議連携会員、立教大学社会学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「食・土・肥料—SDGs 達成のための基礎科学として」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会、農学委員会土壌科学分科会、一般社団法人日本土壌肥料学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本土壌微生物学会、日本ペドロロジー学会、日本土壌動物学会、公益社団法人農業農村工学会、日本第四紀学会、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人日本森林学会、土壌物理学会、日本農作業学会、公益社団法人環境科学会、日本作物学会、根研究学会、森林立地学会、日本沙漠学会、日本腐植物質学会、日本熱帯生態学会、日本熱帯農業学会
4. 日 時：令和5年（2023年）7月29日（土）10：00～16：15
5. 場 所：東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区桜丘1-1-1）  
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

現在、世界の食システムは困難な時期にある。気候変動による作物収量低下に加えてコロナ禍とウクライナ戦争によるサプライチェーンの分断は、肥料と食料の高騰を招いている。2022年人口は80億を越え、同時に飢餓人口も増加に転じた。このような世界情勢は、肥料と食料の自給率が低い日本には深刻な問題である。

食は豊かさの象徴であるが、その本質は私たちの生存の基盤であり、数多いSDGsの重要な位置を占める。現在、世界が2030年のSDGsの達成のために努力をしているが、日本は「ジェンダー平等」（目標5）、「つくる責任、つかう責任」（目標12）、「気候変動対策」（目標13）、「海の環境保全」（目標14）、「陸の環境保全」（目標15）、「パートナーシップ推進」（目標17）の6つの目標への取組が不十分と評価されている。目標12、13、14、15は食料の生産と消費に直接関わる問題であり、目標5も17もそのあり方の問題と捉えられよう。さらに、食料生産はプラネタリーバウンダリーにおける窒素・リンの循環、生物多様性の喪失、気候変動、土地利用変化の問題にも深く関わっている。

このような背景のもと、私たちは食システムにおける土壌科学と肥料科学の貢献と課題を今一度検討しようと考えた。土壌と施肥の管理は、世界各国一様に食料生産の基礎中の基礎である。日本は肥料の原料の多くを輸入に頼りながらも、これまでの豊富な施肥により肥料成分が農地土壌に蓄積している場合も少なくない。この蓄積を維持し、ど

のように利用するかは食料生産の持続可能性に関わる問題である。一方、世界には土にほとんど肥料成分が含まれていない国もある。また、食料の生産工程は気候に左右され、地形に依存する。広い農地を持つ地域もあれば、傾斜地の狭い棚田や樹園地、放牧地を管理する地域もある。どのような地域でも農地は洪水や土砂流出などの災害防止により環境保全の役割も担ってきたが、反面、水や大気の汚染源にもなっている。従来、地域が持つ土地の生産力と環境保全力が地域の人口を扶養してきたが、現在および将来の気候変動下において、それらをどのように維持し、あるいは、見直すのかが持続可能性のカギであり、それを明らかにするためには地域間の相互理解も不可欠となる。

本シンポジウムでは、そのような世界の多様性を認識し、責任ある食システムの構築に向き合うきっかけとなることを目標とした。

## 9. 次 第：

◇総合司会：川東 正幸（日本学術会議連携会員、東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域教授）

10:00 開会挨拶 小崎 隆（日本学術会議連携会員、愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授）

10:05 共同主催者挨拶 妹尾 啓史（一般社団法人日本土壌肥料学会前会長・日本土壌肥料学会創立 100 周年記念事業準備委員会前委員長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

10:10 趣旨説明 波多野 隆介（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

### 第 1 部「世界の食・土・肥料は今どうなってる？」

◇司会：川東 正幸（日本学術会議連携会員、東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域教授）

10:15 『世界の土壌と農業の多様さ』

藤井 一至（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員）

10:30 『土地の人口扶養力』

篠原 信（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門上級研究員）

10:45 『植物と施肥の関係』

樋口 恭子（東京農業大学応用生物科学部教授）

11:00 『肥料の来た道行く道』

木村 武（一般社団法人日本土壌肥料学会常務理事）

11:15 『土と暮らしのリデザイン』

松田 法子（京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）

11:35 一部のまとめと質問票の配布

11:40～13:00 休憩

### 第 2 部「食・土・肥料のサイエンスで SDGs！」

◇司会：山岸 順子（日本学術会議連携会員、元東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:00 『土と胃袋とトイレを結ぶ』 湯澤 規子（法政大学人間環境学部教授）

- 13:20 『市民の力を活用した温室効果ガス削減微生物の探索』  
大久保 智司（東北大学大学院生命科学研究科特任助教）
- 13:35 『微生物の制御による土壌養分採掘と炭素貯留の両立』  
早川 智恵（宇都宮大学農学部生物資源科学科助教）
- 13:50 『鉄と微生物をイネの肥料にする新技術』  
増田 曜子（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）
- 14:05 『岩と土のケミストリーで農のカーボンニュートラル』  
中尾 淳（京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）
- 14:20 『データサイエンスで篤農家の匠の技を明らかにする』  
市橋 泰範（国立研究開発法人理化学研究所植物-微生物共生研究開発チームリーダー）
- 14:40 『食の確保と地球温暖化防止のための施肥戦略』  
犬伏 和之（日本学術会議連携会員、東京農業大学応用生物科学部教授、千葉大学名誉教授）

14:55～15:10 休憩

### 第3部「パネルディスカッション食・土・肥料」

◇ファシリテーター：藤井 一至、山口 亮子（フリージャーナリスト）

◇パネリスト：

篠原 信（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門上級研究員）

湯澤 規子（法政大学人間環境学部教授）

市橋 泰範（国立研究開発法人理化学研究所植物-微生物共生研究開発チームリーダー）

波多野 隆介（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

- 15:10 1) 生産性と環境保全は両立できるのか？  
2) 化学肥料は減らせるのか？  
3) 有機農業をどのように活用する？  
4) 消費者は何ができるのか？  
5) 夢のある農業をめざして

16:10 おわりに 藤原 徹（一般社団法人日本土壌肥料学会副会長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:15 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」  
(IYBSSD2022) 連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)





公開シンポジウム  
「市民性涵養と法教育－現場と法学教育の連携から考える」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）7月30日（日）14：00～17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

現在、社会におけるダイバシティ・インクルージョンが進展し、市民がその生涯全般において社会と関わる事が不可欠になってきており、市民には、そうした状況において対応しうる、市民としての「新しい教養」が求められる時代になっている。その際「市民性（シティズンシップ）」をいかに涵養するかが、教育のさまざまな段階、局面において重要な課題である。

その重要な一つの柱として法教育があり、近年、法的リテラシーの幅広い普及と拡充のための試行錯誤が積み重ねられており、さらに法学専門教育（法曹養成を含む）と法教育を連動させる試みも行われている。

本シンポジウムでは、中高の公民教育や大学教養教育、社会人の生涯教育等における法教育の実践例や諸機関の連携の具体例を確認し、さらにそれらを踏まえ、討論において、「市民性」涵養のための法教育や法学教育をどのように体系性をもったかたちで構築していくべきかについて検討するものである（各報告はネット上で一定期間公開予定）。

9. 次 第：

<全体司会> 本分科会委員（未定）

14：00 開会挨拶

三成 賢次（日本学術会議第一部会員、一般財団法人阪大微生物病研究会特任顧問）

14：05 報告①「日本における法教育・法学教育の歴史：概念整理」（仮題）

林 真貴子（日本学術会議連携会員、近畿大学教授）

14：20 報告②「オンラインツールを活用した法学教育の試み：Zoom 模擬裁判員を中心に」（仮題）

平山 真理（日本学術会議連携会員、白鷗大学教授）

14：40 報告③「法に触れた少年に対する『法教育』の実践と課題：法科大学院と少年院との連携協定に基づく試み」（仮題）

武内 謙治（日本学術会議連携会員、九州大学大学院教授）

休憩（5分）（15:00～15:05）

15：05 報告④「弁護士会における法教育活動：神奈川県弁護士会での取組から」（仮題）

村松 剛（日本弁護士連合会）

15：25 報告⑤「18歳成人制と法教育の課題」（仮題）

渡邊 弘（鹿児島大学准教授）

15：45 報告⑥「社会人教育としての法教育」（仮題）

田中 教雄（日本学術会議連携会員、九州大学大学院教授）

休憩（10分）（16:05～16:15）

16：15 質疑応答・総合討論

<司会> 松本 尚子（日本学術会議連携会員、上智大学教授）

<ディスカッサント>

- ・各報告者
- ・コメンテーター：藤井 剛（明治大学特任教授）
- ・コメンテーター：小川 幸司（長野県立伊那弥生ヶ丘高校教諭）

17：25 閉会挨拶 本分科会委員（未定）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「宇宙や自然を探求しよう～新たな発見をめざす基礎研究の魅力～（案）」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部
2. 共 催：福井県立大学、 中部地区会議
3. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）8月21日（月）13：30～17：30（予定）
5. 場 所：福井県立大学永平寺キャンパス講堂（福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島 4-1-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

宇宙や自然には、まだ多くの分からないことがあります。その分からないことに向き合い、失敗を繰り返しながら真理を探求することで、ノーベル賞につながるような新たな発見にたどり着きます。それが基礎研究の大きな魅力であり、面白さです。

今、私たちは温暖化をはじめとする様々な地球規模課題に直面しています。その解決のためには、どのような原理でそれらの現象が起こっているのかを様々な手法で調査し、解き明かすことが重要です。

本シンポジウムでは、ニュートリノをはじめとして、宇宙や地球の姿を明らかにする様々な研究を紹介します。その中には、海洋、気象、南極の研究も含まれます。そして、新たな発見をめざす基礎研究の重要性や魅力を感じていただき、次世代の若者たちと共に地球の未来や取り組みたい研究について考えます。

9. 次 第：

13：30～13：40 開会挨拶

梶田 隆章（日本学術会議会長・第三部会員、東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所・教授）

吉村 忍（日本学術会議第三部長・会員、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授）

岩崎 行玄（福井県立大学学長）

13：40～14：40 基調講演「神岡の地下から探る宇宙の謎」

梶田 隆章（日本学術会議会長・第三部会員、東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所・教授）

14：40～15：10 講演1「地球をめぐる温室効果ガス～温暖化は止められるのか？～」

三枝 信子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長）

15：10～15：40 講演2「極域の海氷に棲む未知の生物たちの話～北極と南極の海氷下の観測から～」

原田 尚美（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

(15：40～15：55 休憩)

15：55～16：25 講演3「CT スキャンで恐竜の秘密に迫る～恐竜の脳や神経の解析～」

河部 壮一郎（福井県立大学恐竜学研究所准教授）

16：25～17：25 総合討論

コーディネータ：筑本 知子（日本学術会議第三部会員、中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授）

講演者全員が壇上に着席

・会場からの質問

・高校生・大学生との交流（質問・意見交換）

（富山県、石川県、福井県、ほか中部地区内の各県、オンライン20分+会場20分程度のイメージ）

17：25～17：30 閉会挨拶

西 弘嗣（日本学術会議第三部会員、福井県立大学恐竜学研究所所長）

10. 関係部の承認の有無： 第三部、科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

（下線の講演者等は、主催部会会員）

公開シンポジウム  
「IT 社会と法」における光と影  
ー利用者・データ・アクセスに焦点を当ててー（仮題）  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会 IT 社会と法分科会
2. 共 催：科学研究費（基盤研究（A））「プラットフォームビジネスとしての電子商取引をめぐる法規整の在り方」（研究代表者：千葉恵美子）、科学研究費（基盤研究（B））「『法的社会化』概念による契約意識の再構成ー契約意識はどのように変わるか」（研究代表者：木下麻奈子）、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））「デジタル取引に係る契約法及び消費者法の再構築に向けた比較法的研究」（研究代表者：川和功子）
3. 後 援：消費者庁（予定）、成蹊大学 Society 5.0 研究所、同志社大学デジタル法制研究センター
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）9 月 1 日（金）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

急速に ICT 化が進行する現代の日本では、様々な新しい問題が顕在化し、法的な対応が迫られている。日本学術会議法学委員会 IT 社会と法分科会では、内閣府の「Society 5.0ー科学技術イノベーションが拓く新たな社会」、デジタル庁のデジタル 5 原則、経済産業省の「Governance Innovation Ver.2ーアジャイル・ガバナンスのデザインと実装に向けて」、消費者庁の「消費者のデジタル化への対応に関する検討会報告書」等及び内閣府消費者委員会「オンラインプラットフォームにおける取引の在り方に関する専門調査会報告書」等を視野に入れつつ、ICT 利用者の安全なアクセス保障、プラットフォーム事業者の責任、及びアクセスの過程で生じた被害からの救済等について検討してきた。そこでは、「誰一人取り残さない ICT 社会の実現」を目的とした様々な法的考察と提言の重要性が、クローズアップされることになる。

このシンポジウムでは、まず、これまで民法学の立場から、「IT化社会と法」のあり方を研究し、かつ、消費者保護の現場でも多数の経験と実績を有する研究者が、基調講演を行う。

次に、基調講演での問題提起等を踏まえつつ、今期の当分科会は、多様な法律分野の専門家から構成されていることから、それぞれの専門分野に軸足を置き、「利用者・データ・アクセス」に焦点を当てた個別報告を行いたい。そこでは、「IT社会と法」に関する光と影の諸点について、それらの現状と課題を浮き彫りにしたい。

個別報告での問題提起や解決の方向性の示唆・提言を受けて、まず、基調講演者と個別報告者らによる意見交換を行い、その後、参加者を交えた意見交換を行いたい。

## 9. 次 第：

14:00～14:10 司会（挨拶、趣旨説明）

川嶋 四郎（日本学術会議第一部会員、同志社大学教授）

14:10～14:40 基調講演「デジタル社会の光と影」

松本 恒雄（日本学術会議連携会員、一橋大学名誉教授）

14:40～16:20 個別報告

「デジタル社会における一般人の契約理解」

木下 麻奈子（日本学術会議連携会員、同志社大学教授）

「デジタル・コンテンツ及びデジタル・サービス供給契約における契約適合性」

川和 功子（日本学術会議連携会員、同志社大学教授）

「デジタルプラットフォーム・ビジネスの光と影」

千葉 恵美子（日本学術会議連携会員、大阪大学招聘教授、名古屋大学名誉教授）

「デジタル社会におけるレジリエンス——国際法の観点から」

佐藤 義明（日本学術会議連携会員、成蹊大学教授）

「アテンション・エコノミー下における情報健康と競争政策」

林 秀弥（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院教授）

「「裁判所内外民事紛争解決手続のICT化」における光と影」

川嶋 四郎（日本学術会議第一部会員、同志社大学教授）

16:20～16:55 質疑応答

16:55～17:00 閉会の挨拶

川嶋 四郎（日本学術会議第一部会員、同志社大学教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「第 17 回防災減災学術連携シンポジウム  
『防災科学からみた関東大震災の回顧と展望』」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）9 月 17 日（日）もしくは 18 日（祝）  
（防災推進国民大会 2023（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の期間内に開催）
5. 場 所：オンライン開催  
※防災推進国民大会 2023 の中の一企画案
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 委員会の開催：なし
8. 開催趣旨：  
関東大震災から 100 年目を迎える契機に、防災科学の視点から関東大震災を振り返り、過去から現在を精査しつつ、未来への展望について議論する。特に 2023 年 7 月 8 日開催の学術フォーラム「関東大震災 100 年と防災減災科学」での知見を整理しつつ、地震・地震動、都市計画、災害医療、情報・社会の 4 つの観点で、学協会の枠を超えた情報共有を行う。
9. 次 第： 所要時間 90 分間

司会 永野 正行（日本学術会議連携会員、東京理科大学理工学部建築学科教授）

趣旨説明 森本 章倫（公益社団法人日本都市計画学会会長、早稲田大学理工学術院教授）

発表 1 「地震・地震動の視点」

目黒 公郎（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環副学環長総合防災情報研究センター長・教授）

発表2 「都市計画の視点」

牧 紀男（京都大学防災研究所教授）

発表3 「災害医療の視点」

大友 康裕（独立行政法人国立病院機構災害医療センター院長）

発表4 「情報・社会の視点」

山本 佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

質疑応答

閉会挨拶

米田 雅子（日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員会委員長、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授、宇都宮大学理事）

10. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため該当しない

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）



○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第49回全国語学教育学会年次国際大会

主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会

期間：2023年11月24日（金）～27日（月）

場所：つくば国際会議場

参加予定者数：約1,400名

申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会 代表者 金子 クレア

審議付託先：第一部

**審議付託結果：第一部承認**

2. こども環境学会2023年大会（沖縄）『地域に生きるこども』

主催：公益社団法人こども環境学会

期間：2023年7月7日（金）～9日（日）

場所：アイムユニバースてだこホール、浦添市社会福祉センター

参加予定者数：約250名

申請者：公益社団法人こども環境学会 代表理事 仙田 満

審議付託先：第一部、第二部、第三部

**審議付託結果：第一部、第二部、第三部承認**



## ○今後の予定

## ●幹事会

|          |      |          |     |         |
|----------|------|----------|-----|---------|
| 第345回幹事会 | 令和5年 | 6月15日(木) | (※) | 14:30から |
| 第346回幹事会 | 令和5年 | 6月29日(木) |     | 14:30から |
| 第347回幹事会 | 令和5年 | 7月13日(木) | (※) | 14:30から |
| 第348回幹事会 | 令和5年 | 7月24日(月) |     | 14:30から |
| 第349回幹事会 | 令和5年 | 8月10日(木) | (※) | 14:30から |
| 第350回幹事会 | 令和5年 | 8月29日(火) |     | 13:30から |
| 第351回幹事会 | 令和5年 | 9月15日(金) | (※) | 13:30から |
| 第352回幹事会 | 令和5年 | 9月25日(月) |     | 13:30から |

※印の幹事会は、取りやめの可能性あり

## ●総会